

史料群番号 58

史料群名	たきぐちいのすけ 瀧口猪之助家文書	旧所蔵者	瀧口猪之助
探訪時住所	(静岡県志太郡焼津町)		
現在の住所	静岡県焼津市		
探訪年月	不明		
史料の年代	享保7(1722)年~明治42(1909)年	史料の総点数	36点
年代の内訳	近世 27点/近代 3点/不明 6点	筆写稿本	なし
既刊行目録	なし		

収蔵にいたる経緯

探訪に関する書類はなく、詳細は不明である。天明6年「御印小物成之事」は、上野村、安部屋村、町村、川尻村の山役についての史料で、地名もいずれも越前国であることを考えると、別な探訪地から収集された史料が混入した可能性がある。総点数は、この史料を含んだものである。

史料群の概要

探訪地の志太(しだ)郡焼津町北新田は、近世は北新田村で、城之腰(じょうのこし)村、鯛ヶ嶋(いわしがしま)村とともに焼津三か村を形成した。明治22年に焼津村、明治34年に焼津町、昭和26年以降は焼津市となっている。近世より鰹釣り漁が発達し、駿河湾を回遊する鰹を足の速い八丁櫓船で捕らえる漁が盛んに行われた。

中央水産研究所の所蔵史料のうち、焼津市北新田に関連する史料群は、本史料群と「愛鷹丸鰹釣り資料」の二つである。「愛鷹丸鰹釣り資料」が近代の、中でも大正期の史料を中心としているのに対して、本史料群は大半が近世のものである。鰹釣り漁に関する史料および、焼津三か村と田尻村との鰹漁の餌となる鯛の漁場争論などの他に、難船、漂着物(寄物)に関する史料があり、これが最も多い。焼津一帯は、清水など駿河湾の焼津より東に位置する村の漁船が難破して漂着したり、あるいは鯨や難船の荷物などが度々打ち上げられたようである。

